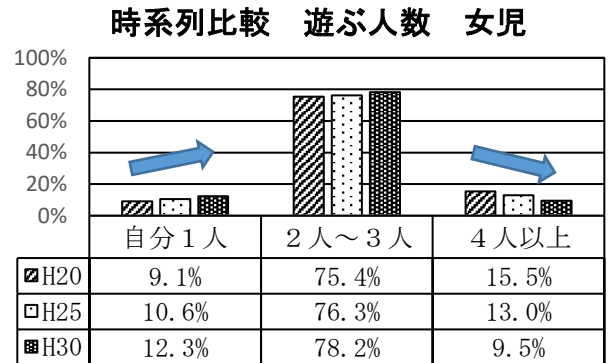
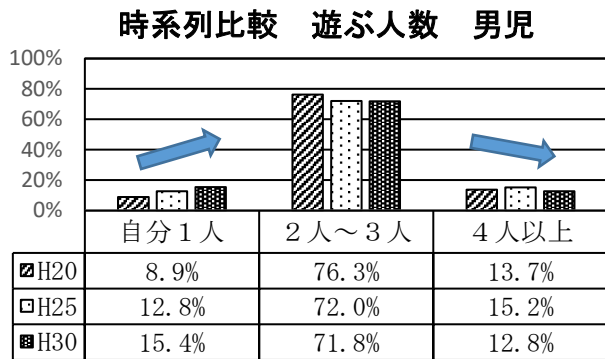


かまくらっ子の意識と調査 第11集 ダイジェスト版～幼児編～ (平成30年度調査結果より)

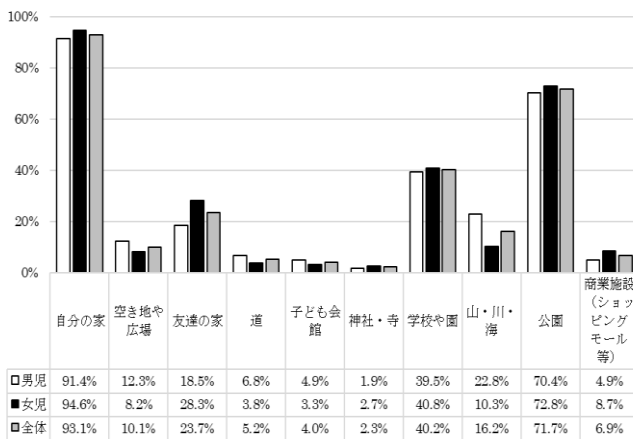
～園児の生活のようすについて～

◇ 遊ぶ人数・家での過ごし方・遊ぶ場所

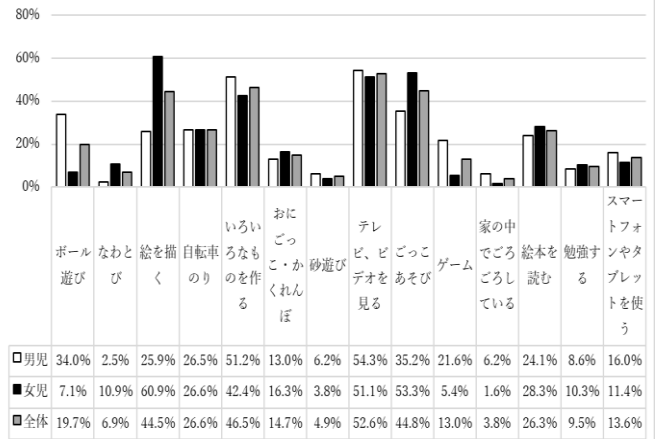
一人遊びの割合が、年々増えています。



(13) 遊ぶ場所



(11) 過ごし方

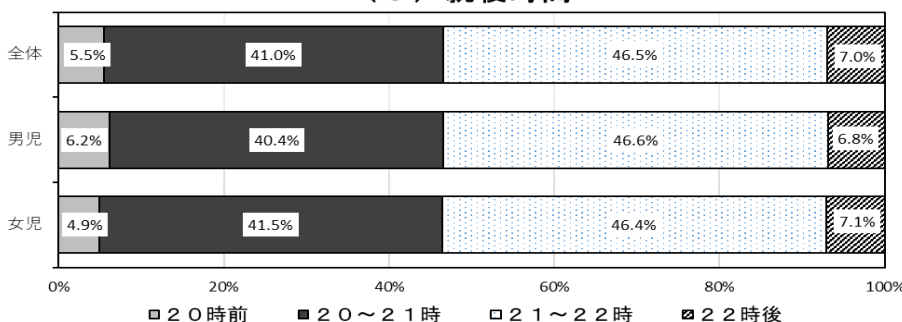


「過ごし方」では、スマートフォンやタブレットを使うという回答も一定数ありました。遊び方の変化は、子どもたちの人やものへの関わり方にも影響を与えていると考えられます。

前回調査よりも遅くなっている傾向がありました。

◇ 園のある前の日の就寝時間

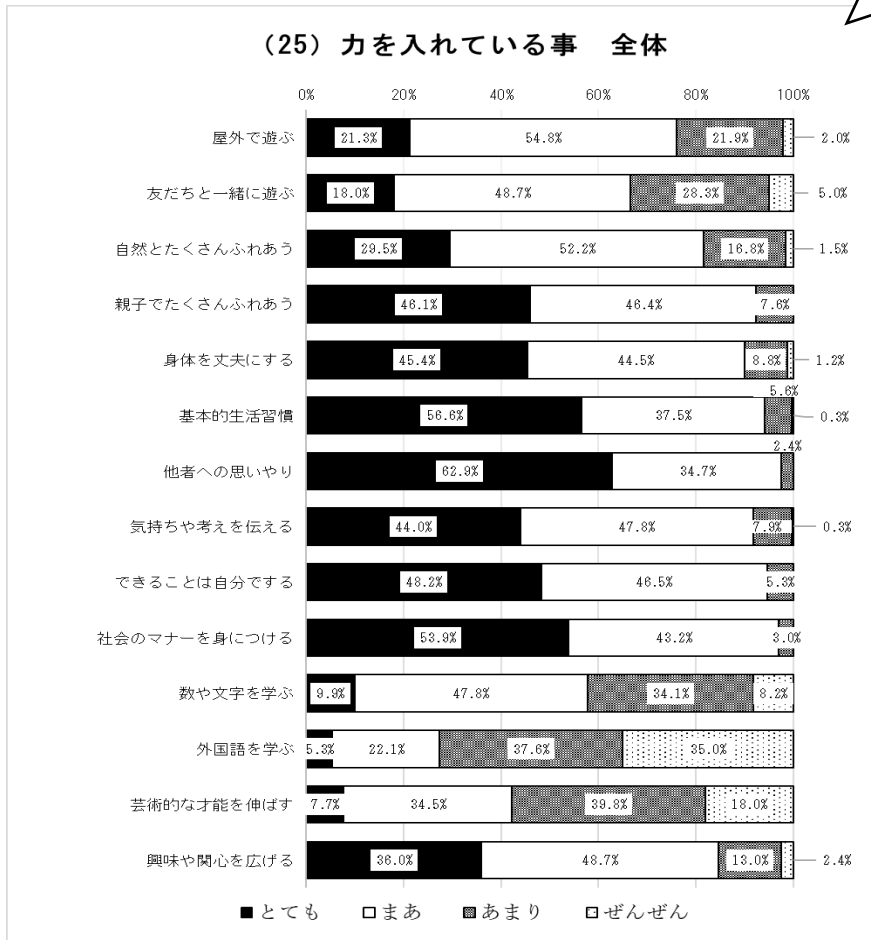
(9) 就寝時間



家庭の生活スタイルが変化し、それに合わせて就寝が遅くなったと考えられます。

睡眠時間の減少は、子どもの心身の成長に大きく影響する課題のひとつです。園や教育機関が家庭へ情報発信をしていくことが大切です。

◇ 家庭で力をいれている事



「他者への思いやり」
「基本的な生活習慣」
「社会のマナーを身につける」
の順でした。

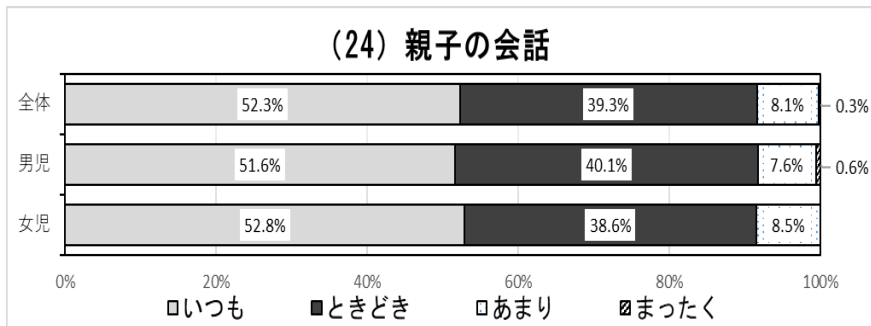
集団生活に必要な社会性や、
心身の健康を育む生活習慣を身
につけさせることに力を入れて
いる傾向が見られます。

どうしたらうちの
子はできるように
なるのかしら…



困り感をもっている保護者
が、園や教育相談機関と具体的
な手立てについて、相談できると
良いでしょう。

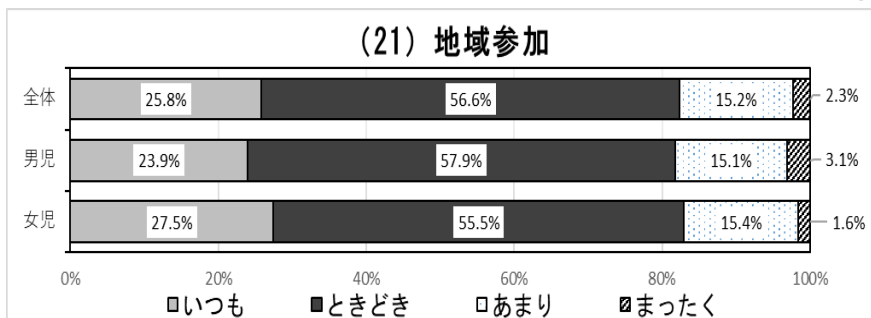
◇ 親子でゆっくり話をする時間



関心が高く、親子の会話をもちたい、
持つことが大切だと思っている
傾向が見られました。

一方、親子の会話を大切にしたい
という思いを持ちながらも、な
かなか家庭でのゆっくりした時
間をもつことができていない状
況もあるようです。

◇ 地域のお祭りや行事への子どもの参加



自分の育つ地域の人々や活動に
親しみがあることは、子どもの成
長にもよい影響を与えます。

地域が、子どもの成長を見守
ってもらえる安心・安全な場所
になっていることが大切です。

～自己肯定感を高めるために～

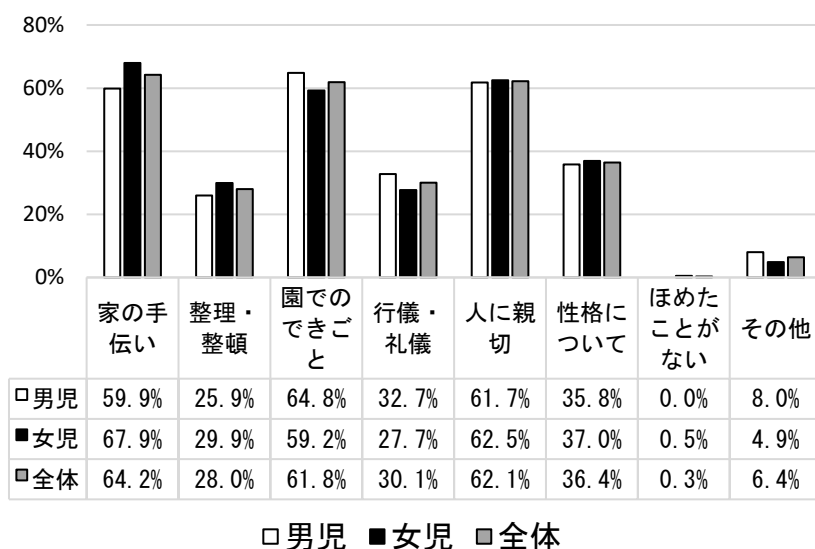
鎌倉の子どもたちの「自己肯定感」を高めていく取り組みが求められています。

「自己肯定感」とは、

自分のあり方を積極的に評価できる感情などを意味する言葉です。自分の良さを感じ、自信を持つことは、心身の健康的な成長のためにとっても重要な要素です。

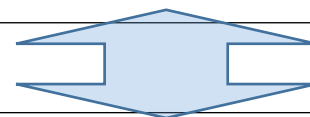
◇ 子どもをほめた・しかった理由で多いもの

(22) ほめた理由



ほめた理由で多かったもの

- ①家の手伝い
- ②人に親切にしたこと
- ③園のできごと



しかった理由で多かったもの

- ①整理整頓のこと
- ②行儀・礼儀のこと
- ③人に迷惑をかけたこと

行儀・礼儀や整理整頓は、しかることの割合が多く、ほめることが少ない様子が見られました。

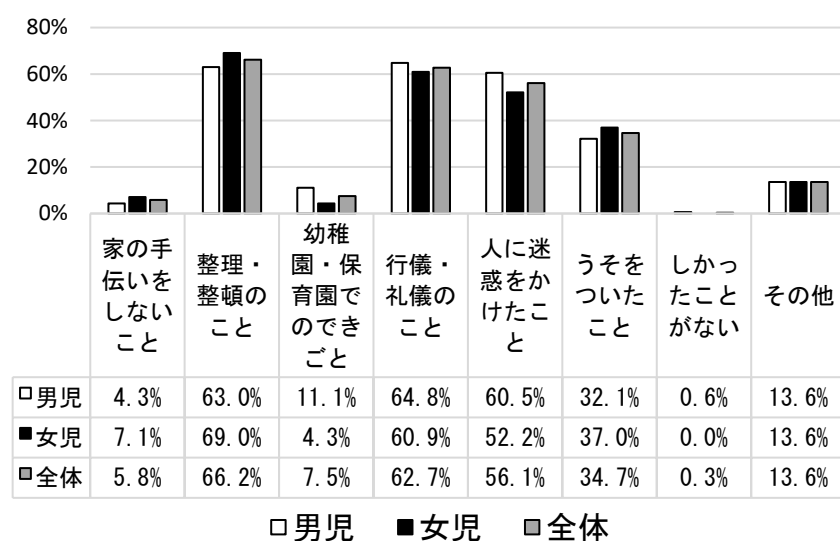
男女で見ると、ほめられることと、しかられることの両方で割合が高くなるものがありました。

※女児は、整理・整頓と家の手伝いについて割合が高い。

※男児は園のできごと、人との関わりのことについて割合が高い。

自分のことを自分でやろうとする気持ちや、経験しながらできることが増えてきたことを、家族や周りの人に認めてもらうことは、子どもたちが自信をつけることにつながります。

(23) しかった理由

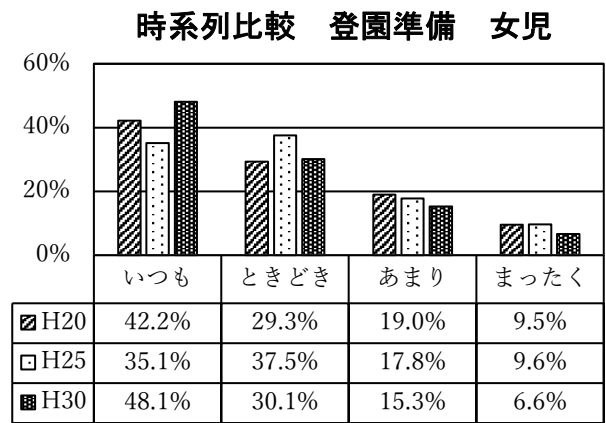
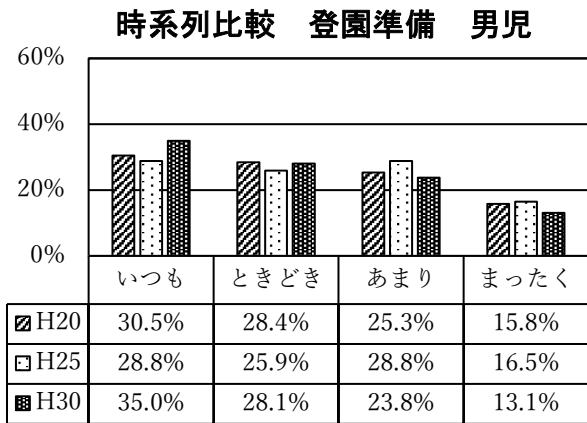


子ども自身が、自分の存在の大切さを感じることにつながることが、ほめること、しかること、どちらにおいても大切です。

家庭・園・地域で子どもたちの自己肯定感を育てていきましょう。

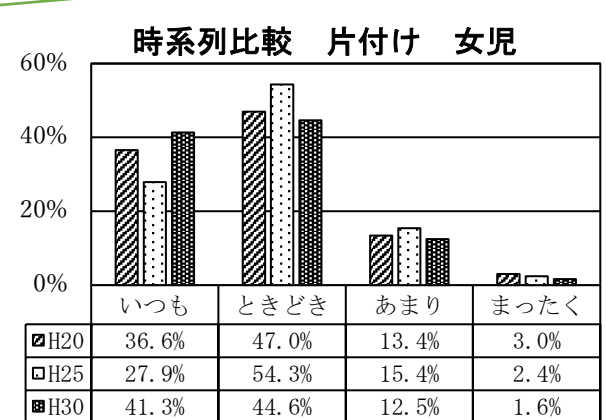
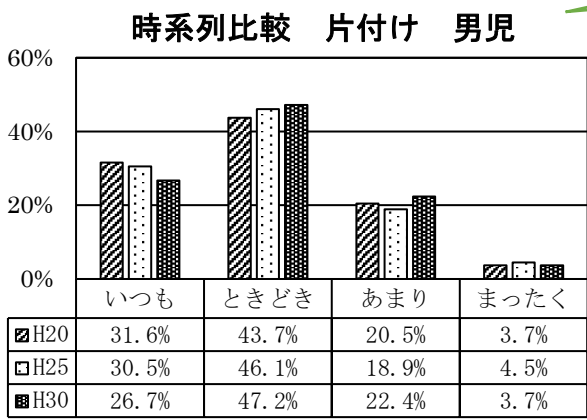
前回よりも「いつも」が増えています。小学校入学前に、「準備は自分でできる」という自信をつけておくと良いでしょう。

◇ 自分で登園の準備をしているか

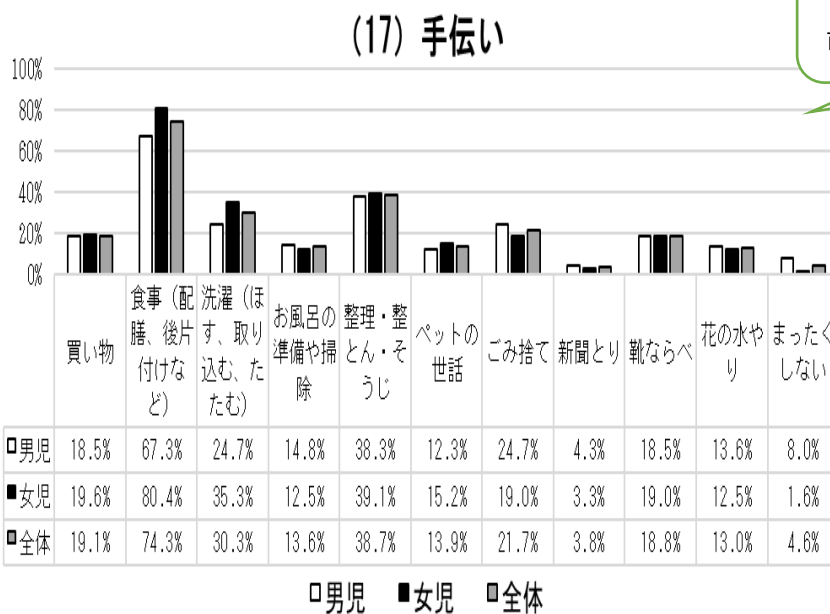


前回よりも、「まったく」の割合が減っています。自分でできた時には、しっかりとほめ、認めてあげる機会を増やすと良いでしょう。

◇ 自分の持ち物の片付けをしているか



◇ どんな手伝いをしているか



「食事」と答えた割合が1番高くなっています。手伝いは子どもの自己肯定感を高めるチャンスです。

小・中学校の調査では、「手伝い」と「自己肯定感」について関係性が見られました。自分が家の仕事に関わることや、「ありがとう」と言われることで、自分が役に立っているという満足感が得られるからではないかと考えられます。食事の配膳や片付け等については、園の生活の中でも行っているため、子どもにとって身近に感じるものになっていると考えられます。